第 009 講 ディスコースマーカー④ 譲歩と主な説明

学習目標

- 譲歩で一度認める事実と、そのうえで維持する説明・立場を読み分ける。
- 二つの対象を同じ観点で並べる単純な対比と、譲歩の働きの違いを説明する。
- 接続表現と前後の内容を照合し、維持する側を支える具体的根拠を見つける。

解説

譲歩とは、**ある事実や難点を認めたうえで、それでも維持する説明や立場を伝える**つながり方だ。

二つの内容をただ並べて違いを示す「対比」とは、文章中での働きが異なる。

読むときは、まず接続表現の前後にある内容を確かめよう。「何を認めているか」「認めたあとでも何を伝えようとしているか」を分け、その後の具体例や説明がどちらを支えるかを確認する。**but や however という語だけで、譲歩か対比か、どこが最終的な立場かを決めない。**

対比なら、比べる二つの対象と共通の観点をそろえる。譲歩なら、認める内容と維持する内容の関係を追う。この順で読むと、認めた側を筆者の最終的な立場と取り違えにくい。

©ミライコーチング

英文

At our school, students can use a small study room after their regular classes end. Some students go there to finish homework, and others want a quiet place before they travel home. Keeping the room open every afternoon gives teachers extra work because one teacher must stay in the room. Some teachers already have meetings or other jobs after class, so the extra work is a real problem. I agree that this problem needs attention, and teachers should have time for their other work. However, I still think the school should keep the study room open on two afternoons each week. Students can finish their homework in the room, and they can ask a teacher for help before going home.

For example, last week Aya asked a teacher about a math problem, and the teacher showed her the first step. The room has two areas for different kinds of work, and each area has a clear purpose. The tables near the door are for pair work, but the desks by the windows are for individual work. Students can choose their seats quickly and begin working without moving tables or chairs around. To share the work fairly, teachers can take turns, so the same person does not need to stay every time. With that schedule, the school can respect the teachers' time and still offer students a useful place to study.

語注：regular＝通常の／extra work＝追加の仕事・負担／need attention＝対処が必要である／pair work＝二人組での作業／individual work＝一人での作業／take turns＝交代でする

©ミライコーチング

問題

問 1

第 1 段落で、筆者が譲歩として一度認めている教師側の具体的な事情は何か。日本語で答えよ。

問 2

その事情を認めたうえで、筆者が維持する立場は何か。日本語で答えよ。

問 3

第 1 段落で、教師側の問題を認める内容から、学習室を続ける立場へ移る文を探し、その文の冒頭 4 語を英語で抜き出せ。

問 4

第 2 段落の「The tables near the door … but the desks by the windows …」という箇所の対比は、問 1・問 2 で扱う譲歩と、文章中の働きがどう違うか。日本語で一文で答えよ。

問 5

教師側の問題を認めることは、学習室を続けるという筆者の立場を、どのような条件付きのものとして示しているか。日本語で一文で答えよ。

問 6

第 2 段落で、学習室を続ける立場を支える、ある生徒の具体的な出来事を述べた文を探し、その文の冒頭 5 語を英語で抜き出せ。

©ミライコーチング

解答・解説

問 1

模範解答

毎日学習室を開くと、教師がその場に残る必要があり、会議やほかの仕事がある教師に追加の負担が生じること。

第 1 段落では、まず gives teachers extra work と、毎日開けることの負担が示される。続いて one teacher must stay in the room と、その負担が生まれる具体的な事情が書かれている。さらに教師に会議など別の仕事があることが明らかになる。
I agree that this problem needs attention は、この難点を筆者も認めるという合図になる。ここで問われているのは**認めた事情**だけなので、学習室を続けるべきかという立場まで答えに足す必要はない。「授業後にほかの仕事がある教師に、学習室に残る追加の負担がかかること」など、上の事情を明確に伝える言い換えも認められる。

問 2

模範解答

学校は、学習室を毎日ではなく週に 2 日の午後、引き続き開くべきだという立場。

第 1 段落の次の文に、筆者の立場が明示される。
However, I still think the school should keep the study room open on two afternoons each week.
should keep the study room open が「学習室を開き続けるべきだ」、on two afternoons each week が「週に 2 日の午後に」に当たる。前にある「教師の負担」という情報を消してしまうのではなく、その負担を認めながら、学習室は残すべきだと述べている。

認めること	それでも維持すること
毎日開くと教師に追加の負担がかかる	週に 2 日の午後には学習室を続けるべきだ

左欄は問 1 の対象、右欄は問 2 の対象となる。「**教師の負担があるから閉じるべきだ**」とは書かれていない。解答には、続けるという判断と、本文で明示された週 2 日の条件を含める。

問 3

模範解答

However, I still think

直前には、教師の負担を real problem と認める内容や、教師にはほかの仕事の時間も必要だという記述がある。続く文では、still think によって、その難点を認めても学習室を続けるべきだという立場を述べ始める。したがって、これは単に二つの違いを並べる but の文ではなく、**認める側から維持する側への接続**を担う文だと判断できる。
冒頭から **However,（1 語）／I（2 語）／still（3 語）／think（4 語）** と数える。コンマは語として数えず、語に付いたまま書く。

> **ミライポイント！**
>
> **接続語は見つけるだけで終わりにしない。直前が「認めた事実・難点」なのか、直後が「それでも保つ立場」なのかを確認し、その後の根拠も同じ立場を支えているか照合しよう。**

問 4

模範解答

指定箇所は作業の種類という同じ観点で二つの座席の用途を並べて区別する対比だが、問 1・問 2 の譲歩は教師の負担を認めたうえで学習室を続ける立場を示す働きをする。

指定箇所は、入口近くのテーブルが pair work 用で、窓際の机が individual work 用だと述べている。二つの対象を**どのような作業に使うか**という一つの観点で比較しており、どちらかの問題を認めてから一つの立場を維持する流れではない。
第 1 段落の譲歩では、並んでいるのは同じ観点で比べる二つの席ではなく、**考慮すべき難点**と**それでも続けるという立場**だ。両方に違いを表す語が現れても、文章中の役割が同じとは限らない。解答では、座席の対比と立場の譲歩を一続きで区別できればよい。

問 5

模範解答

教師の負担を無視して毎日開くという無条件の主張ではなく、教師のほかの仕事や時間にも配慮できる形で学習室を続けるという条件付きの立場として示している。

I agree that this problem needs attention は単なる負担の説明ではない。筆者が「教師には別の仕事もある」という制約を受け入れているので、後に出る継続の立場は、**負担を無視した毎日の開放ではない**と読める。第 1 段落の on two afternoons each week は開室を週 2 日の午後に限定し、第 2 段落の teachers can take turns は教師が交代する方法を示す。最後の respect the teachers' time も、教師の時間への配慮を明示している。

問 1 は「何が問題か」、問 2 は「何を続けるか」だった。ここでは、それらを再び列挙するだけでなく、**認めた難点が立場にどのような制限を与えるか**を述べる。「説得力を高めるため」だけでは本文に即した関係が伝わらない。

問 6

模範解答

For example, last week Aya

第 1 段落の後半には、生徒が学習室で教師に質問できるという利点が示される。第 2 段落の該当する一文を、先頭から確認する。

For example, last week Aya asked a teacher about a math problem, and the teacher showed her the first step.

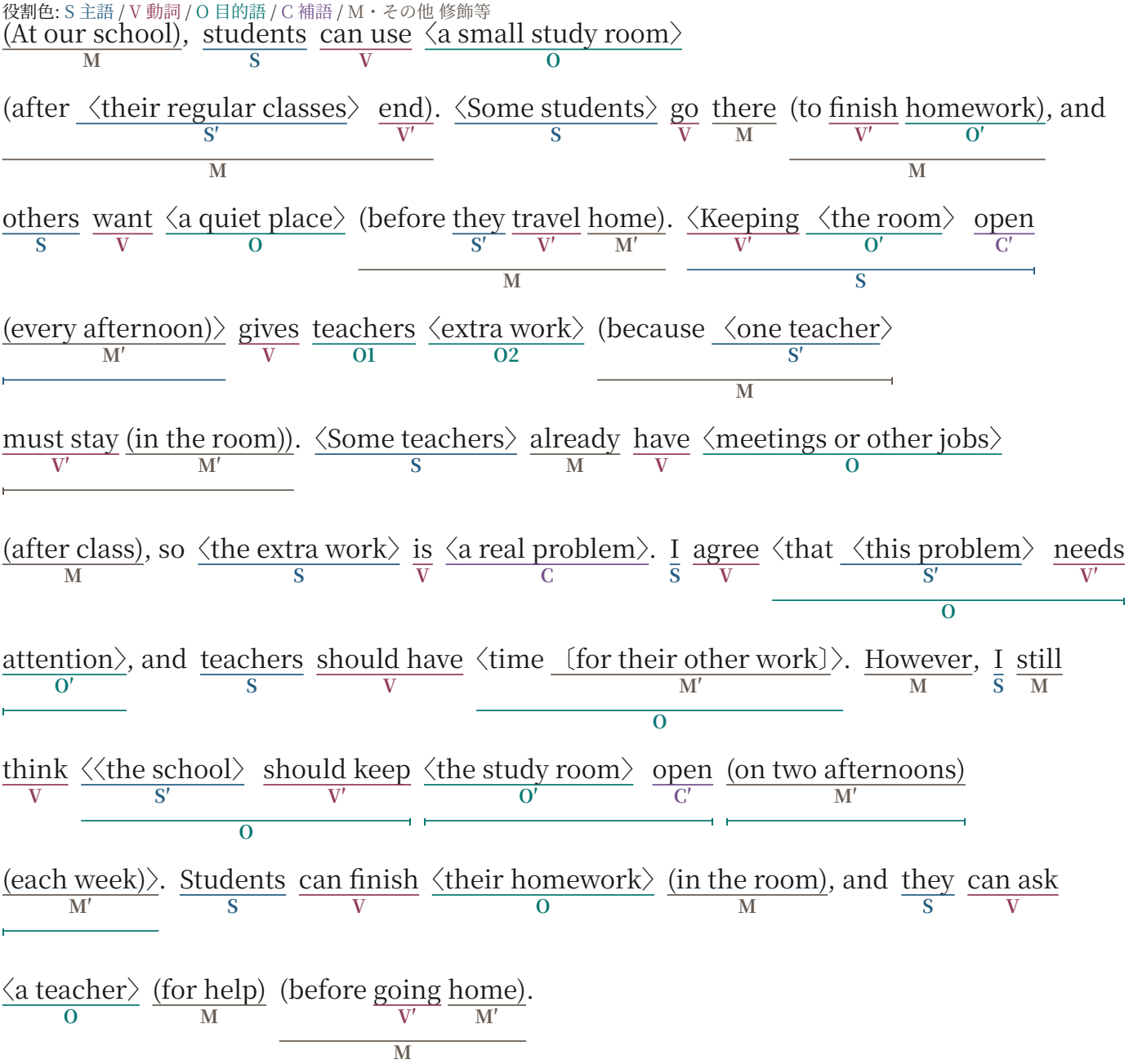
この文は、その利点を一人の生徒の具体的な出来事で裏づける。座席の用途を比べる文や、週 2 回という立場を述べる文ではないため、位置を区別できる。

抜き出すのは **For（1 語）／example,（2 語）／last（3 語）／week（4 語）／Aya（5 語）** まで。コンマは語数に入れない。意味を日本語で説明するのではなく、指定された一文の冒頭 5 語をそのまま書く。

全文の構造分析

ここでは、英文の内容を確かめるために、主語・動詞・目的語・補語と修飾関係を示す。〈 〉は名詞の働き、〔 〕は形容詞の働き（名詞の修飾や主語の性質・用途の説明）、( )は副詞の働きに対応する。英文のすぐ下の **S′・V′** などは句や節の内部、その下段の **S・V・O・C・M** などは外側の文の骨格を表す。**O1・O2** は、二つの目的語を取る文での第 1 目的語・第 2 目的語を示す。等位接続で二つの節・述語が並ぶ場合は、必要な役割をそれぞれ示す。

役割色: S 主語 / V 動詞 / O 目的語 / C 補語 / M・その他 修飾等



役割色: S 主語 / V 動詞 / O 目的語 / C 補語 / M・その他 修飾等

(For example), (last week) Aya asked 〈a teacher〉 (about a math problem), and
M M S V O M

〈the teacher〉 showed her 〈the first step〉. 〈The room〉 has 〈two areas 〔for different
S V O1 O2 S V M′ O

kinds of work〕〉, and 〈each area〉 has 〈a clear purpose〉. 〈The tables 〔near the door〕〉 are
S V O S M′ S V

〔for pair work〕, but 〈the desks 〔by the windows〕〉 are 〔for individual work〕. Students
C S M′ S V C S

can choose 〈their seats〉 quickly and begin 〈working〉 (without moving
V O M V O V′ M

〈tables or chairs〉 around). (To share 〈the work〉 fairly), 〈teachers〉 can take turns, so
O′ M′ V′ O′ M′ M S V O

〈the same person〉 does not need 〈to stay (every time)〉. (With that schedule), 〈the school〉
S V V′ M′ O M S

can respect 〈the teachers' time〉 and still offer students 〈a useful place 〔to study〕〉.
V O M V O1 O2 V′

一文ずつの対訳

対訳

At our school, students can use a small study room after their regular classes end.
私たちの学校では、通常の授業が終わったあと、生徒は小さな学習室を利用できる。

対訳

Some students go there to finish homework, and others want a quiet place before they travel home.
宿題を終わらせるためにそこへ行く生徒もいれば、帰宅する前に静かな場所がほしい生徒もいる。

対訳

Keeping the room open every afternoon gives teachers extra work because one teacher must stay in the room.
学習室を毎日の午後に開けておくと、教師が一人その部屋に残らなければならないので、教師に追加の仕事が生じる。

対訳

Some teachers already have meetings or other jobs after class, so the extra work is a real problem.
授業後にすでに会議やほかの仕事がある教師もいるため、この追加の負担は現実の問題だ。

©ミライコーチング

対訳

I agree that this problem needs attention, and teachers should have time for their other work.
私もこの問題には対処が必要だと認めているし、教師にはほかの仕事をする時間が必要だ。

対訳

However, I still think the school should keep the study room open on two afternoons each week.
しかし、それでも私は、学校は週に 2 日の午後には学習室を引き続き開くべきだと思う。

対訳

Students can finish their homework in the room, and they can ask a teacher for help before going home.
生徒はその部屋で宿題を終えたり、帰宅する前に教師に助けを求めたりできる。

©ミライコーチング

対訳

For example, last week Aya asked a teacher about a math problem, and the teacher showed her the first step.
例えば先週、アヤは数学の問題について教師に質問し、その教師はアヤに解き方の最初の手順を示した。

対訳

The room has two areas for different kinds of work, and each area has a clear purpose.
その部屋には作業の種類に応じた二つの場所があり、それぞれの場所には明確な用途がある。

対訳

The tables near the door are for pair work, but the desks by the windows are for individual work.
入口の近くにあるテーブルは二人組の作業用だが、窓際の机は一人で取り組む作業用だ。

対訳

Students can choose their seats quickly and begin working without moving tables or chairs around.
生徒はテーブルや椅子を動かさなくても、すぐに席を選んで作業を始められる。

対訳

To share the work fairly, teachers can take turns, so the same person does not need to stay every time.
仕事を公平に分担するために、教師は交代で担当できるので、同じ人が毎回残る必要はない。

対訳

With that schedule, the school can respect the teachers' time and still offer students a useful place to study.
その予定なら、学校は教師の時間を尊重しながら、生徒に役立つ学習場所を引き続き提供できる。

©ミライコーチング